

## 2020年 東京外国語大学（前期日程）【英語】 解答速報

2020年2月25日施行

### 1 長文論述問題

1.

#### 【解答例1】

遑つては文字、続いて印刷機、その後に新聞がそうであったように現在はインターネットが我々の記憶力と集中力を衰退させるものだと考えられているということ。(74字)

#### 【解答例2】

記憶にとって否定的な影響をもたらすとされたテクノロジーの登場は、書き言葉、印刷術、新聞とこれまでもあったが、現在は、インターネットがそれであるとされること。(79字)

2.

#### 【解答例1】

人の脳は使い方に応じて常に機能が向上または減退する柔軟な器官である、ということ。(40字)

#### 【解答例2】

脳は生まれてから死ぬまで、使い方に応じて改変されたり改造されたりすること。(37字)

3.

#### 【解答例1】

インターネット上の会話が終わらないことによって脳の能力が影響を受けるということ。(40字)

#### 【解答例2】

オンライン上の「会話」が未完結のままにされることで脳の機能が影響を受けること。(39字)

4.

#### 【解答例1】

ソーシャルメディアから情報が大量に流入し、情報消費の衝動が抑制できなくなる状況。(40字)

#### 【解答例2】

多すぎる新情報を求めようとする生得的衝動が暴走し、脳の休止時間が得られないこと。(40字)

5.

**【解答例1】**

デジタル機器で情報を後でも得られると分かっていると忘れがちになるということ。

(38字)

**【解答例2】**

情報をデジタル装置から再取得できると考えた場合、我々がその情報を忘れる傾向。

(38字)

6.

**【解答例1】**

インターネットを外付けの情報貯蔵装置とすることで、学習において個別の事実を暗記することよりもより概念的にものを思考することを重視するようになるということ。

(78字)

**【解答例2】**

インターネットを記憶補助媒体として利用することによって、個々の事実を記憶することから解放され、ネット上では得られない抽象的な思考に知的能力を向けることができる。

(80字)

## 2 長文空所(単語)補充(語形変化あり)

- ① describing (現在分詞)    ② expect    ③ contained (過去形)    ④ limited (過去分詞)  
⑤ reach    ⑥ traveled / travelled (過去形) または had traveled / had travelled (過去完了形)  
⑦ used (過去分詞)    ⑧ growing (現在分詞)    ⑨ lead    ⑩ inhaled (過去分詞)

## 3 長文空所(欠文)補充

- ① G    ② A    ③ B    ④ F    ⑤ H    ⑥ D    ⑦ I    ⑧ E

- 4 リスニング：省略    5 リスニング：省略    6 リスニング＋英作文：省略

### 《講評》

全体として、昨年度の出題形式・傾向から大きく変わったところはありません。読解部分では、大問1が「論述問題（長文下線部の内容説明）」、大問2が「空所補充問題（単語レベル）」、大問3が「欠文補充問題（センテンス、またはその一部を補う）」です。

①の記述式問題は、例年通り内容説明の小問が6問でした。難度や形式、書く分量においても大きな変化はありませんでした。大学受験レベルの語彙・構文・文法をしっかりと身につけておくことが正解への最低条件です。加えて、英文全体のテーマを理解し、論旨展開を迫るための思考力が肝要です。英文のテーマは、近年、社会的な問題として論じられることが多い「ソーシャルメディアの影響」でした。こうした現代的な論点について、ある程度の背景知識があることも役立ちます。

設問の内容は、マイクロコンテキスト(=下線部の前後の狭い文脈)の範囲で解答できる小問(2, 3, 5)と複数のパラグラフに及ぶやや広い範囲の文脈を踏まえて解答すべき小問(1, 4)がありました。後者の場合は関連する範囲を見極める必要がありますが、問題の英文が全般的に比較的平易な語彙で書かれ、論旨も明快なので、文脈をとらえて関連する箇所を見つけ易いはずですが。

ただし、合格答案の作成には、理解した内容を字数制限内での確かな日本語で表現する能力が必要になります。小問1にある「歴史的経緯を踏まえて…」など、設問の条件をしっかりと満たしながら答えることも重要です。基本的な英語の学習に加えて、伝えたい内容を過不足のない、分かり易い日本語で表現するための十分な訓練が不可欠です。

②の空所補充は、単語レベルの空所を補充する問題です。10カ所の空所に対して、選択肢の単語が11語あること、さらに、難易度や問題傾向も近年の過去問から大きな変化はありません。従来から継続するこの問題の作問傾向は以下の3点です。

- ① 選択肢の単語群が大学入試としては基本的な動詞が中心である。
- ② 「必要があれば適切な形に変えて…」という指示がある。
- ③ 近年の語形変化は以下のパターンにほぼ集中している。
  - i 「動詞を現在分詞、過去分詞、あるいは動名詞に変える」
  - ii 「動詞の時制を変化させる」
  - iii 「動詞に三人称単数現在のSをつける」

今年度の語形変化は、「三単現のS」はありませんでしたが、その他は均等に出题されています(「過去形」と「現在分詞」が2つずつ、「過去分詞」が3つ、「変化なし」が3つ)。基本動詞の意味や使い方についての正確な知識を身につけることが必須です。今後も上記の3つの出題傾向が続くかどうかは断言できませんが、このパターンを意識して学習することは非常に有効な対策となる可能性が高いと言えます。

③の欠文補充は、センテンスまたはその一部が抜けた空所を埋める問題です。これも例年通り、8カ所の空所に対して9個の選択肢があります。大きな文脈と近接する文脈の両方をバランスよく把握しながら、空所を埋めるのに適切な内容を推理する力が要求されま

す。主に語彙や語法の知識を活用する大問②とは違った思考力を必要とします。例年いくつか迷う選択肢がありますが、そういったときは解答保留として読み進み、最終的に消去法によって正解を導く、という方法が有効です。また、一度選んだ選択肢を固定化せず、問題を解き進む過程で試行錯誤しながら最適なものに変えていく柔軟性も重要です。冷静にしっかりと文脈を追うことを心掛け、解答後にパッセージ全体に目を通して、論理的かつ自然な文章の流れになっているかどうかをチェックする時間があれば正解率が高まります。

④と⑤は例年通りリスニング問題です。過去にはメモの空欄を埋める単語や数字を書かせる記述式が出題されたこともありましたが、今年で3年連続④、⑤共にマルチプルチョイス問題（3択）となりました。また、近年続いていた「放送1回のみ」が、昨年度は⑤で久しぶりに「2回」聞く問題が出題されましたが、今年度はまた④、⑤共に1回に戻っています。放送回数が今後どのようなパターンで定着するかは、予断を許さない状況です。

⑥は8年連続で「リスニングと英作文の融合問題」です。これまでと同様、放送を2回聞いて、

- 1) 放送内容の要約を英語で書く問題
- 2) 放送内容に関する質問に対して自分の意見を英語で書く問題

の2つが出題されました。昨年度は、与えられる参考資料が「英語の簡単な見出しがついた数枚の写真」でしたが、今年度は「講義中に表示されたスライド」となりました。ただし「スライド」と言っても、画像的なものではなく簡単な講義メモのような語句なので、一昨年までの「メモ書き」の資料に戻ったことになります。いずれにせよ、「リスニングの内容について、ヒントを参照しながら英語で要約する」と問われている本質的な能力は変わりません。およそ、50分前後で、各問200語程度（計400語程度）のライティングが求められますので、リスニング力の強化とともに一定の時間内にこのボリュームの語数を書き上げるための十分な準備と訓練が必要です。短期間での対策は困難で、中長期的・日常的な学習が望まれます。

トフルゼミナール